

2016 年度課題研究会活動成果報告書

課題研究会名：医療 ICT と在宅連携のための標準看護マスタのモデル研究会

設置期間：2015 年 5 月～2019 年 3 月

代表幹事の氏名・所属：宇都由美子・鹿児島大学大学院医歯学総合研究科医療システム情報学

幹事の氏名・所属：石垣恭子・兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科 ヘルスケア情報科学コース看護情報学領域

伊藤明美・神戸市立医療センター中央市民病院看護部

柏木公一・国立看護大学校 人間科学 情報学

岡田みずほ・長崎大学病院 看護部

須原麻砂江・県立広島病院 看護部

永野智恵・医療法人近森会近森病院 看護部

前田直美・医療情報システム開発センター

村岡修子・N T T 東日本関東病院 看護部

高見美樹・園田学園女子大学 人間健康学部 人間看護学科

松本智晴・熊本大学大学院生命科学研究部 環境社会医学部門
看護学講座

活動成果の概要：

1. 標準看護計画マスタの開発方針

- ・2015 年度の活動の一環として、全国の医療機関に対して看護マスタの現状調査を行った結果より、我が国の標準的な看護マスタが存在していないために、3N：NANDA-NIC-NOC を用いたり、自院での独自開発を行ったりしているという施設が多いことが判明した。また、マスタに対する満足度についても低かった。
- ・2016 年度は、これらの現状分析に基づいて、日々の看護情報の蓄積の中から、どのような成果があげられているかを明らかにし、さらに、中小規模の医療機関でも、すぐに使える標準的な看護ケアマスタ、特に標準看護(ケア)計画マスタに備えるべき要件について検討を重ねた。

2. 第 17 回日本医療情報学会看護学術大会時に、チュートリアルを開催する。

平成 28 年 7 月 8 日 (金)、9 日 (土) に兵庫県神戸市で開始された「第 17 回日本医

療情報学会看護学術大会」において、標準看護マスタに関するチュートリアルを開催した。300人以上の参加者を得て、アセスメントを重視した看護計画マスタについての報告と、それに基づいて会場の参加者との全体討議を行い、活発な意見交換が行われた。

活動成果の発表（文献のリストを記載する形式で記載）：

〔学会発表〕 計（ 3 ）件

- ①宇都由美子、村岡修子、石垣恭子、前田直美：すぐに使える標準看護マスタの開発－その3－、第17回日本医療情報学会看護学術大会論文集、p.35、2016.
- ②相馬泰子、村岡修子他：看護記録における現状と課題、第17回日本医療情報学会看護学術大会論文集、p.83-84、2016.
- ③高見美樹、石垣恭子、高嶋真美、中西寛子、鈴木利明、嶋 芳成、竹村匡正、水流聡子、宇都由美子：標準化された看護用語を活用したMMLへの適用についての検討、第17回日本医療情報学会看護学術大会論文集、p.93-94、2016.